

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

①ユネスコ委員の新設

学校全体でESDに取り組むため、各クラスにユネスコ委員（1～2名）を新設。本校のESD活動の核とした。

②ESDパスポートの導入

今年度から、日本ユネスコ協会連盟が発行するESDパスポートを導入、全校生徒に配布。ボランティア活動推進の起爆剤とした。早くも30ボランティア達成者が1名出た。

③リアカー・プロジェクト

元祖「メイド・イン・ジャパン」のリアカーを使った環境保全活動。毎月、ユネスコ委員会によって行われる学校周辺の美化活動「リアカー・パトロール」と、夏季休業中に生徒会主導、有志が参加して行われる「リアカー・ボランティア」に分かれている。リアカー・パトロールについては、ユネスコスクール加盟後に形態の変化があったが、元々の形ではどちらも10年以上の歴史がある。

リアカー・パトロールの実施日は5月15日、6月19日、9月11日、10月30日、11月13日、12月11日、1月15日、3月11日（予定）。

リアカー・ボランティアについては、今年度は3回が予定されていたが、雨天に泣かされ、実際に実施できたのは1日のみ。日にちは8月4日、生徒の参加人数は41名。学校を起点とし、隣の田原市までの約20kmを踏破し、清掃活動を行った。

④ワールド・フライデー

不定期の金曜日（月2回ほど）、朝のST前の10分の時間を使って、全校生徒がNHKワールドニュース（英語）を視聴する。純粋な意味での英語の勉強ではなく、世界のニュースに親しみ、英語での情報収集に慣れることが目的。今年で2年目の試み。今年度は計20回。

⑤届けよう、服のチカラ

アパレル大手ユニクロがCSRとして実施する「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに初参加。9月の文化祭を使って、本校生徒、同系列の幼稚園、近隣の小中学校、そして地域の人々から、子供服を寄付していただいた。その結果、30kg段ボール箱14箱分の子供服を集めることができた。

⑥エコキャップ回収

本校では元々エコキャップを集めていたが、ユネスコスクール加盟を機に、より組織的にエコキャップを回収することを決めた。各クラスでユネスコ委員がエコキャップを回収し、担当教員に提出。クラスごとに量を集計した。集まったエコキャップは、2月29日に、地元産業廃棄物処理業者を通して、特定非営利活動法人Reライフスタイルに寄付した。合計220kg。

⑦平和学習会

戦後70年を記念して、8月19日の出校日に、生徒会主催、全校生徒参加で、校内において平和学習会を行った。豊橋空襲や豊川海軍工廠空襲を中心とした豊橋と周辺地域の歴史を学び、この70年間戦争がなかった意義を学んだ。ワークシートを元にクラスで討論会も行った。

⑧震災学習会

5年前に発生した東日本大震災を学び考える集会を、3月11日に生徒会開催、全校生徒（1、2年生。3年生は既に卒業）参加で行った。生徒会役員が予め2月に気仙沼や釜石を訪れ、現地の高校生と交流。その体験を元に、東日本大震災について全校で考えた。なお、過去2年間、生徒会は毎月11日に、豊橋駅前震災の風化を防ぐ目的で、街頭募金を行って来た。（新聞記事添付）

⑨市内福祉施設への車椅子等寄贈

本校では毎年、市内福祉施設の行事にボランティアとして参加している。今年度は街頭募金で集めたお金を使って購入した品物を、各福祉施設に寄贈した。喜寿苑とすこやか里には車椅子、王寿園には介護用パット、玉藻荘には紙しばいを寄贈した。

⑩認知症サポーター講座

12月11日～17日、1学年（全8クラス）の各クラスで認知症サポーター講座を実施。各50分。豊橋市役所長寿介護課や地域包括支援センターの方々を講師としてお招きし、認知症についての正しい知識と適切な対応を実践的に学んだ。講座終了後、受講者は認知症サポーターに認定された。

⑪アロマワックスバー

家政科2年生による取り組み。朝市で高齢者にいくつかの癒しグッズを試してもらい、その中でアロマワックスバーを製作することを決定。東三河の特産品であるメロンやみかんなどを使いながら、視覚的にも嗅覚的にも楽しめるオリジナルのアロマワックスバーを作った。作品は、10月23日、24日に豊川市総合体育館で開催されたかわしんビジネス交流会で展示し、その取り組みを、高校生ビジネスアイデア発表会の部で発表した。

⑫地域と協働のネパール震災募金

2015年4月25日にネパールで発生した震災被災者救援のため、他校や外部団体との協働の下、募金活動を行っている。7月20日には、ポートインフォメーションセンターカモメリアで開催された豊橋みなとフェスティバル2015において、豊橋ユネスコ協会と協働で募金活動を実施。家政科1年生有志6名が参加し、合計1万5148円の義援金を集めた。また、2016年1月10日には、豊川ライオンズクラブや豊川高校と協働で、豊川稲荷において、募金活動を行った。（新聞記事添付）

⑬台湾の高校との交流

2016年3月1～4日、特進クラス20名が台湾に修学旅行に行き、台北の西松高級中学と交流した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）

まだ復興途上 「支援継続」

豊橋中央高生徒の学習会

豊橋中央高校で11日、生徒会が中心となつて東日本大震災の学習会を開き、1、2年生535人が震災について学んだほか、支援を続けること

豊橋中央高校で11日、生徒会が中心となつて東日本大震災の学習会を開き、1、2年生535人が震災について学んだほか、支援を続けること

とを誓った。

震災から5年が経過し、風化が懸念されることから、忘れないために企画した。

体育館で行い、ピ

デオで津波の様子を見たほか、生徒会長の中河良紀さん(2年)が「今年2月に被災地を訪ねましたが、まだまだ現地は復興途上です。私たちは震災のことを忘れずに、できる範囲で支援を続けていきたいと思います」と呼び掛けた。

学習会終了後、生徒有志が豊橋駅前で募金活動を行い、街行く人たちに復興支援を呼び掛けた。

(竹下貴信)



震災を忘れないために企画した学習会―豊橋中央高校で



豊川稲荷で募金活動

ネパール教育支援募金など 豊川LCと高校生ら

豊川ライオンズクラブ(LC、野沢晴茂会長)は10日、初もうで客でにぎわう豊川稲荷(豊川市豊川町)山門前で、ネパール教育支援募金と愛知私学奨学資金財団1億円募金活動を行った。

豊川高校と豊橋中央高校の生徒ら25人も参加し、大きな声で協力を呼びかけた。それに応えて募金を呼びかける豊川LCメンバーと高校生たち(豊川稲荷で、豊川LC提供)

くの参拝客が募金に協力した。同LCメンバーの大木光章さんは「子どもや高齢者など、通り過ぎてからわざわざ戻ってきてきて募金してくれた」と感謝。

「ライオンズクラブのモットー『We Serve』(奉仕こそ我々の生命であり使命である)の啓発の意味で大きな成果になった」と話した。

(森美香)

2015年(平成27年)7月21日(火曜日)

三河港や海の仕事に触れる

豊橋でフェス「あつみ」「白龍」公開

募金活動も



白龍による流木回収の実演
＝豊橋市神野ふ頭町で

豊橋市神野ふ頭町の「カモメリア」一帯で20日開催された「みなとフェスティバル」。三河港や海に関わる催しが繰り広げられ、夏休みの家族連れらが理解を深めた。



支援復興の復興支援
中央豊橋の復興支援
中央豊橋の復興支援
中央豊橋の復興支援

三河港クルーズには大勢の家族連れらが乗船。浜松市から家族と来た小学3年生の男の子は「クラゲを見たよ。楽しかった」と話し、出発前には自動車に積み込まれる様子も見ることができたという。この日は、海上保安庁名古屋海上保安

部所属の巡視船「あつみ」、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所所属の海洋環境整備船「白龍」が一般公開された。

白龍は、人の手に近い動きができるクレインによる流木回収などを実演し、来場者が見入っていた。

会場では、税関や海保の仕事などを紹介するコーナーがあったほか、メーソンスーツでは豊橋海洋少年団がわりしく手旗などを披露したり、豊橋伝播隊「D O E E」がパフォーマンスを見せたりした。

(中村晋也)

部所属の巡視船「あつみ」、国土交通省中部地方整備局名古屋港湾事務所所属の海洋環境整備船「白龍」が一般公開された。

白龍は、人の手に近い動きができるクレインによる流木回収などを実演し、来場者が見入っていた。

会場では、税関や海保の仕事などを紹介するコーナーがあったほか、メーソンスーツでは豊橋海洋少年団がわりしく手旗などを披露したり、豊橋伝播隊「D O E E」がパフォーマンスを見せたりした。

豊橋みなとライオンズクラブは、来場者に献血への協力、献腎、献眼などを呼び掛けた。

また、平和のための活動などをする豊

橋ユネスコ協会は、ネパール大地震の復興支援募金活動を実施し、来場者に協力を呼び掛けた。会員

のほか、豊橋中央高校の1年生有志6人も参加し、声を張り上げた。(1面参照)